

火の見櫓

(題字は西辻八尾市長)

発行所
八尾市消防団
発行責任者
八尾市消防団長
北野 忠義
八尾市高美町 5-17
TEL (0729) 92-0119
FAX (0729) 92-7722

右のマスコットに名前を付けて下さい。
併せてあなたの防火・防災の標語を募集しています。
編集委員会



発刊を祝して



八尾市長 西 辻 豊

輝かしい平成十年の新春を迎え、八尾市消防団の皆様方には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

また、平素より、自分達のまちは自分達で守るといふ精神に基づき、消防・防災活動など、多様化する災害に即した活動を実践され、地域に密着した災害対応機関としての重責を担っていただいておりますことに、心から敬意と感謝の意を表する次第であります。

ご承知のように、戦後最大の被害をもたらした「阪神・淡路大震災」から、早や三年が経過しましたが、大都市を襲った直下型地震は、全国自治体の消防体制並びに防災対策のあり方について、多くの教訓を残し、国民の安全に対する関心を一層高める契機となりました。

懸念の救援・救助活動を続けておられました消防団員の皆様の活躍が大きく取り上げられ、消防団の職務の重要性が広く認識されたところであります。

八尾市では、平成八年度から消防団の活性化事業に取り組み、市民の皆様から信頼される活気ある消防団づくりを進めているところでありまして、この度、その一環として、機関紙「火の見櫓」を発刊されましたことは、消防団各位の士気高揚を図ることはもとより、防災ニーズに的確に応えうる組織づくりに、大きく寄与するものと期待いたしております。

私ども行政といたしましても、地震をはじめ、火災などの災害から市民の生命や財産を守るため、消防力の充実・強化はもとより、地域防災計画の見直しや大規模災害に備えたネットワーク体制の強化を図るなど、

災害に強い安全で快適なまちづくりに努めているところであります。

どうか消防団の皆様方に挨拶いたします。

消防団の活性化をめざして



八尾市消防団長 北野 忠義

輝かしい平成十年を迎えて、消防関係の皆様方には、ご家族ともども恙なく、ご越年のことと、心からお慶び申し上げます。

と団員各位が地域における消防防災の核としてのご尽力の賜ものと深く感謝と敬意を表す次第でございます。

さて、伝統ある消防団も、高齢化の進展と就業形態の変化など社会環境の変化に少なからず影響を受けています。

「火の見櫓」を刊行されたことは、誠にめでたく嬉しいことと思っております。

近來、人々の価値観や行動様式の多様化が進むにつれ、消防団活動に対する市民の皆様方がご理解とご協力を得ることが重要な課題といえます。

機関紙の発刊によせて

八尾市消防長

木村 政 信

早春の候、八尾市消防団員の皆様方には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

関紙「火の見櫓」を刊行されたことは、誠にめでたく嬉しいことと思っております。

この町の災害を防止するため、今後さらに消防団と常備消防とが強力なスクラムのもとに地域ぐるみ、職場ぐるみの自主防災管理体制の推進を図るとともに、

市民に期待される消防団として、災害対応力が有る事は勿論のこと地域の防災リーダーとして消防団員の研修・訓練を充実していく必要があるものと考えます。

本市消防団では、今後益々、団員一同、地域とのコミュニケーションを図りながら、まちづくり政策の目標であります「快適で安全なまち」の実現に向け、

終わりに、各市消防団の発展と団員皆様方並びに消防関係皆様方の益々のご健勝、ご多幸を祈念して機関紙発刊と年頭のご挨拶いたします。

タイトル募集を知って

第八分団 阪本 真人
真っ先に浮かんだのが「火の見櫓」でした。

私の町にある「火の見櫓」は、二十数年前、地元団員自らの手でその柱、ボルト一本に至るまで防火・防災の祈りを込めて建設された物で、より思い入れの深い物となっています。

ファンファーレも 高らかに出初式

新春恒例の平成十年消防出初式が一月七日(市立八尾中学校で)行われまし
た。
澄みきった新春の空のも
と、消防職団員等、四〇二
名と消防車両三四台が参加
して次々と行進し、消防の
力強さを市民にアピールし
ました。
市長祝辞の後、優良消防
団員の表彰に続き、出初式
の華、消防車両による一斉
放水に消防団からは、本

部・五・六・七・八分団の
五台二十五名が参加し、日
頃の訓練成果を披露しまし
た。

今年、初めて出初式に参
加した新団員の方は「恥ず
かしいことですが、八尾市
でこのような盛大な出初式
が行われていることを消防
団に入団して初めて知りま
した。来年は家族や子供達
にも見せてやりたいと思い
ます」と顔を紅潮させなが
ら語ってくれました。



又、出初式を振り返り川
野副団長が「統率のとれた、
一糸乱れの無い行進や放水
訓練は、事前に数限りない
訓練を経て初めて出来るも
のです。それには、日頃、
家族など陰の協力者の支え
で初めて実現出来るもので
あり、この成果は、その人
達に一番先に見て頂きたい
し、その人達のために、地
域のために還元出来るもの
と確信しています」と団員
全体の気持ちを代弁して頂
きました。

海外(ローマ・パリ)消防事情調査

第四分団分団長 川 淵 博

今回の海外事情調査団に
府下より参加の四名は昨年
九月十九日、伊丹空港に集
合しました。

大阪府消防協会西村事務
局長の激励の言葉と府・市
消防関係の方々のお見送り
を戴き成田空港へ向かいま
した。翌二十日成田空港第
二ターミナル特別室に於て、
全国各地からの参加者五十
九名による団結式が行なわ
れ、日本消防協会・大屋団
長から、消防団幹部の皆さ
んが広く欧州の政治・文化
等に接し更に消防関係者との
情報交換と友好親善を通
して消防に関する視野を広
められ、我が国の消防の充実
発展に資する事が目的で有
るとの訓辞がありました。

参加者は二班に別れ、私は
第一班団長以下三十一名に
所属し、全日空・オースト
リア航空共同運行便十時四
十分発(所要時間十二時
間)で最初の目的地オース
トリア共和国ウィーンから
の欧州九日間の旅が始まり
ました。消防関係調査先

ストとして、イタリア共和
国ローマ市郊外のカパニー
ル中央消防学校とローマ市
内のクスコラーノ消防署・
フランス共和国パリ消防本
部を訪問調査することにな
りました。

九月二十三日
「カパニール中央消防学校」
イタリア共和国の消防は
軍隊で組織しており中央消
防学校には、消防士官教養
部・消防下士官教養部・義
勇消防隊員教養部があり、
消防士官教養部では一般大
学理工科分野の理論を消
防技術に生かす教育をうけ
士官としての活躍が約束さ
れている。消防下士官教養
部には空軍・陸軍から派遣
された者や空港の消防要員

達物理化学の理論、消防
機械器具の構造・原理等の
教育を受ける幹部の養成部
です。



「マグニチュード」を観て
二十年前の大地震で、父
は妻を、息子は母を亡くし
た。そして二十年後、息子
誠は、特別救助隊長として
故郷に戻り、漁業を営みな
がら消防団員となった父辰
雄と再会するが、互いの接
点を見出せないまま時間が
経過する。そのうち辰雄が
学校で実施した消火訓練中
に、生徒がボヤ騒ぎを起こ
し、父子の間は、更に気ま

「マグニチュード」を観て

ずくなった。 団員を辞めた

辰雄は、出漁中に大怪我を
負い入院する。この間に、
誠は父が二十年前調査した
膨大な地震に関する資料
を見つけ、父を看病をする
陽子先生が、二十年前に辰
雄に助けられた少女である
ことを知った。父に対する
気持ちが変わりかけたその
時、地震が再び彼らを襲っ
た。
真つ先に枕元の靴を履き、

である。義勇消防隊員教養
部は徴兵適齢期の青年に消
防に関する技術教育を行い
それぞれの地方の消防隊に
配属され兵役が免除される
ことになっている。年間四
千五百名の隊員教育を行な
っている。実地訓練につい
ては、ローマ市郊外四十五
キロに訓練センターがあり、
石油化学・メタンガス火災
対応やサーキット場での運
転訓練・煙の充満した暗闇
での行動訓練・航空機事故
を想定しての実際にジャン
ボ機を使つての救出消火訓
練・コンビナート災害対応
訓練・放射能漏れ事故対応
訓練で「雲に乗ってやって
くる放射能」と言う表現を
していましたが、防御処
理研究についても消防で対
応しているとのことでした。
組織として大災害発生時に
は四十五歳まではいつでも
召集されることになってい
る。

九月二十五日
「クスコラーノ消防署」
ローマ市の一部十五万人

懐中電灯を手にし、署へ向
かった誠、病院を抜け出し
て人命救助に向かう辰雄。
二人の脳裏には、二十年
前に、母(妻)を救えなか
った無念さが有ったからで
ある。

我々団員・署員が持つ家
庭が仕事かのジレンマにつ
いては今更のように共感し
た。
大変な危険を冒し、使命
感で行動する姿は我々を代
表する何者でもない。

この物語は、先の大震災
で多数の方が亡くなった事
を思い起こし、防災意識の
高揚のため制作されました。
改めて、各人が今、何を
すべきかを充分に考え、実
行する機会であると思う。



「今春ビデオ化されるそうです」

病院に指示を出している。
救急については一部有料で
ある。バカンスで長期間家
族全員不在になることが多
く、階上階下近隣からガス
漏れ、水漏れ等の調査申告
時には、不在家屋へガラス
を破つての調査もあるとの
ことでした。パリの消火
栓はセーヌ川から配水され
五十米毎に設置されており、
水圧は八キロで口径百ミリ
双口式となっている。装備
のうちでも、銀色に輝くヘ
ルメットは最新式で航空機

「パリ消防本部」
フランスの消防も軍隊に
所属している。パリ市消防
本部は一つの街区をぐるつ
と囲む形で内部は広い運動
場兼駐車場の様である。建
物の一階は車庫・整備工
場、二階は事務室・指令室、
三階から六階は幹部職員百
所帯の家族住宅となつてお
り、緊急時には直ちに召集
可能な態勢になっている。
消防本部には七千五百名の
隊員が勤務しており、指令
室に常時六・七名で市民か
らの各種通報に、コンビュ
ーターを使い管内七十八ヶ
所の機関に指令を出してい
る。隣接して救急関係の指
令室が別があり、医師二名
が勤務し出動隊に、或いは

用かと思われる形をしてお
り、背負ったボンベの残容
量が上目使いで読み取れ、
作業靴は革に焼きを入れて
硬くて軽くしてあり、ヘル
メット・ボンベ等作業中の
感電防止についても配慮さ
れている。ちなみに家庭用
の電圧は二百ボルトである。
イタリア・フランス両国
とも女性消防隊員はいない
とのことでした。以上消防
関係の調査のみ書いてしま
したが、一方で全国各地の
消防幹部の方々の話に学
ぶこと多く大変有意義な調
査旅行に感謝いたしており
ます。
尚ウィーン・ローマ・ミ
ラノやパリの市内調査見聞
体験については、又の機会
にご報告申し上げたいと思
います。



特集 本部分団

これからの久宝寺本部分団と寺内町

しないちろう

本部分団編集委員 黒川博昭
本部分団編集委員 植野保弘

本部分団は、久宝寺の中心に位置する場所に屯所があり、火災や災害などに備えています。その屯所の北側には、望楼（火の見やぐら）があり、久宝寺寺内町が一望できます。寺内町以外にも、十三地区の管轄区域があり、毎月一日には消防車で、火災予防を呼びかけています。そして今回特集記事を組むにあたり、久宝寺寺内町に注目しました。久宝寺は、戦国時代に寺内町として建設された四百五十年の歴史を持った街です。文明二年（千四百七十年）の河内布教の際、「帰する者市の如し」と言われるほど、帰依する人が多かったこの地に西証寺と寺号を改め、天文十年（千五百四十一年）頃にこの御坊を中心とした、久宝寺寺内町が誕生しました。ここには、多くの真宗門徒が集まって、自治を行い、また



火の見櫓と屯所

商工業者も集まって繁栄して来ました。久宝寺寺内町には、江戸時代の絵図が残っており、昔の街の構成を知ることが出来ます。寺内町は、環濠と土居で囲まれ、町への出入は、六カ所の木戸口から行われており、外部には、東西七本、南北六本の道路が基盤目状に走っていました。この様な町制

り、ほぼ当時のまま残っており、貴重な歴史的遺産として注目されています。また江戸時代から現状に至るまでのさまざまな様式の町家が見られ、この中に社寺や土蔵、あるいは地蔵堂、水路などが通るアクセントとなつて造られる久宝寺の町並は、四百五十年以上の歴史を今に伝える生きた歴史の教科書といえます。説明が長くなりましたが、そんな歴史の残る街の中心にある本部分団は、団員一人一人が仕事を持っています。そして管轄区域内で火災が発生すれば、昼夜を問わず、屯所へ集結し、消防車で、現場へ急行します。到着してすぐに消防隊の指示に従い、活動し、無事鎮火すればまた屯所へ帰り、仕事にもどります。その他にも本部分団は、市民スポーツ祭・節分・トンドなどの

警備、久宝寺祭りなどの交流や歳末警戒などの行事に参加し、そこで出会った人達に火災の恐さを知ってもらい、防火を心がけて頂いています。しかし最近では、都市化が進み、建物の高層化・市民や車の増加による道路の幅員など変化してきています。その中でも今、本部分団は車の違法駐車や迷惑駐車などで頭を痛めています。その理由に、現場への到着が遅れ、最悪の場合事故につながり非常に危険だからです。現場への到着の遅れは、火災の被害を拡大させ、助かる命も助からない事もあります。これからの車の増加は考えられますが、マナーやルールは守ってもらいたいと思います。

本部分団は木田孝久分団長以下十一名で構成されていますが、私達の様な若い団員が少ないと思います。市外勤務者の増加に加え、消防団の存在を知らない人が多い様です。自営業者の減少が考えられます。私も分団長に出会うまでは消防団を知りませんでした。そして活動内容を聞き、防災の手助けが出来ればと思い、入団を希望したのでした。他の若い人達にも火災の恐さ、災害の悲惨さを知り、人命の大切さ、消防の大事さを理解してもらい、この歴史の残る美しい寺内町の町並を、共に守って行きたいと思えます。そして、団員一人一人が火災予防を、心がけていくことを約束します。

八尾市消防分団紹介

第一分団

八尾市北西部の地域で幸町・桂町・山賀町・新家町・泉町・高砂町での消防活動を、おこなっています。竹口登分団長中心に、分団員総11名、団結を固め「地域に根のはった消防団」を合言葉に春、秋の火災予防、6月5日の木村祭の開催、10月24日の西郡神社の祭などの交通整理、地元警察官とも力を合せて安全を守っています。これからも、地域に、たよられる消防団として頑張っています。

第二分団

岩崎甚太郎分団長以下団員11名で菅振・小畑・長池・緑ヶ丘・旭ヶ丘・桜ヶ丘・光町・楠根・宮町（一部）・美園・山城・北本町・本町・東本町・南本町（一部）・荘内・清水・光南・栄町の各町を管轄しています。毎月1回会合を持ち防火及び防災についての話し合いとか巡回をしている。10月9日・10日の両日加津良神社秋祭りの交通整理などの警備をしている。消防車の調子を見るために定期的に楠根川沿で放水訓練をしている。楠根川沿の廃車の不法投棄及び不法駐車による放火が連続発生し、そのため団員は、個々に楠根川沿を通るようにして、不審者がいないか気をつけている。



第三分団

八尾市西部に位置し、中央環状線と25号線の幹線道路に隣接する地域を

火災から守るため日々努力しております。

地区行事である亀井福祉委員会主催の納涼盆踊大会の警戒警備等をはじめ、地域の防災に努めています。

日常は辻村浩分団長以下7名により、消防車の点検及び訓練を行ない、受持区域を火災のないようにがんばっております。

第四分団

管轄は市南部地域で今話題となっている防災備蓄基地建設候補地の八尾空港を中心として南側（沼・太田・若林）の町域で、太田分隊、消防車1台、隊員12名。空港北側（木の本・北木の本）の町域で木ノ本分隊、消防車1台、隊員8名。川瀬博分団長以下合計20名で構成。空港東側は西弓削町に接し九分団地域、西側地域は大阪市平野区に接し南側の大和川を挟んで藤井寺市とも相互に飛地があり時には、応援出動となる場面もあります。

第五分団

曙川地区（八尾木・東弓削・中田・刑部・柏村）で団員構成し、吉川達夫分団長以下16名で「郷土を守る消防団」をもっとうに活動しております。

97年は分団に新車の配置を頂き由義神社にて入魂式を執り行ない地域の役員の方々と共にささやかな御祝いをさせて頂きました。

当団は毎月第2土曜日を地域の防災日として団員全員で受け持ち地域を消防車で防災の広域活動と消火栓点検を実施しています。

今後は神戸震災の教訓として“地域のネットワーク作りに活動していきたい”と分団長以下団員いちがんと頑張っておりますので地域各位皆様の御協力を宜しく御願ひします。

第六分団

松岡孝司分団長以下恩智分隊26名、北部分隊18名総人数44名にて組織されており、月2回の定例訓練・自主訓練として出動時には現場で十分な活動が出来るよう近くの川・池等を利用し、小型ポンプの始動・機材及び備品の点検を行い、離れた場所でも連携を密とした活動をするためトランシーバーを使用した訓練も行っています。我が分団は地理的に七分団と同様山林を控えているため、2年に1回は山林火災を想定した訓練を町会の協力の上、本署の職員と合同で行ったり、地元の利を生じた恩智分隊、北部分隊合同の地域防災活動も行ない、毎年8月1日には由緒ある恩智祭りに「消防団」と入ったはっぴを着て参加し、地域密着型消防活動として団員全員が頑張っています。

第七分団

概況
松本茂分団長を頭に計30名で構成されております。中高・北高地区の火災警備を担当しています。屯所は中高安地区は、服部川と山畑に有り、北高安地区は神立と大竹に有り計4屯所が有り、月1回の定例訓練をしています。



特徴

十人十色と言いますが個性の強い人、酒の好きな人が多いです。しかし、火災や訓練などいざという時には、全員が一致団結し、まとまりの良さは

たいへん強く団員それぞれ人情に厚く、思いやりの心もあり『質実剛健』の分団です。

第八分団

鹿野豊分団長以下上之島、上尾、東山本、福万寺の4分隊48名で華の八分団を構成、北は東大阪境界、西は旭が丘、南は近鉄大阪線、東は外環状線までの地域に睨みを効かせています。水防では恩智川、玉串川等を管轄し、山林火災では、六、七分団と協力関係に有ります。

八分団は、地域住民との「触れ合い」を大切に、親しまれる消防団創りを目指し、防火・救命訓練、地域スポーツ祭の応援等を行っています。分団長主催のゴルフコンペや祭礼の相互応援等親睦活動も盛んで、八分団は「一つ」の考えの基で多彩な活動をしています。



第九分団

志紀地区を担当し、松村勝美分団長を先頭に47名の団員を擁し老原、天王寺屋、弓削、田井中の4分隊で構成され、分団会議は毎月5日に召集されます。本団の年中行事は、春・秋の美化運動、市民スポーツ祭等です。各分隊は、器具の点検・放水訓練・防災パトロール等を自主的且つ日常的に活動しています。団員の平均年齢は40、1歳で全員消防団員として誇りと自覚と行動力を持って日々頑張っています。

なみはや国体警備

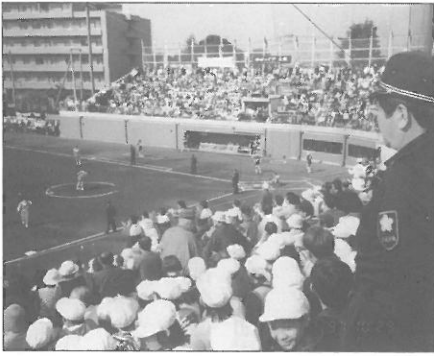
第五十二回国民体育大会「なみはや国体」の成年女子ソフトボール競技が、平成九年十月二十六日から二十九日までの四日間、山本球場及び久宝寺球場で開催されました。

八尾市からも大阪府代表として、ミキハウス(株)の選手が多数出場し、決勝戦で群馬県に敗れましたが準優勝という好成績を残しました。

各市消防団も警備班の主力として、山本・久宝寺の両球場で大会初日から決勝戦までの四日間に消防団長以下延べ五十一名もの団員が球場内外の防災警備にあたりました。

大会一日目から三日目までは秋空に恵まれたものの、気温が低くときおり突風をもなった強風の中早朝から夕刻迄、所定の警備場所へ頑張って頂いた団員の皆さん、本当にご苦労さまでした。

大会本部の話によれば、大会開催中フアウルボールによる小さな負傷事故等



発生したもののこれといった事故も無く、無事終了出来たことです。統制のとれた整備体制を見て、次期開催地の神奈川

大阪府消防大会

消防団員の団体規律と消防技術の向上を図り、消防体制を強化することを目的に第四十一回大阪府消防操法訓練大会(大阪府・大阪府消防協会主催)が、平成九年九月二十一日(日)大東市の大阪府立消防学校で、府下全域から消防団員一、六

県小田原市の職員が警備本部を訪れ、是非、参考になりたいと、防災の警備組織、体制について、取材してゆきました。中でも、防災警備の主体が消防団員であることに、大きな関心をよせていました。

〇〇名、消防車両三十九台が参加し盛大に開催されました。

中でも「消防操法訓練」はポンプ車操法と小型ポンプ操法の二種目について、府下七地区から選ばれた団員が、技術の正確さ、規律、覇気、スピードについて

消防団員健康診断

平成九年十一月十五日(土)消防団員の健康診断が実施されました。今年で八回目を迎える受診者も平成五年以降徐々に増加していき、今年が、本年は八十六名で昨年より十五名減少し、また実

員に対する受診率は三十五%で、これも五年ぶり低下しました。消防団員の健康増進対策推進方策検討委員会の報告によると、消防団員の年齢は、確実に高齢化しており、平成七年の全国消防団員の平均年齢は、三十五・九歳となつています。

各市消防団における同年の平均年齢は四十一・九歳、平成九年には四十二・三歳となり全国水準をはるかに

て競いあいました。各市消防団からも、小型ポンプ操法の部に第九分団四名(指揮者 石井幹也 一番員 中村博志 二番員 上野正己 三番員 近江弘行)が出場しました。

昨年五月から、五カ月にわたり猛訓練を重ね大会に望みましたが、残念ながら入賞は逃しました。

しかしながら、規律と統制のとれた行動は、出場消防団の中でも突出しており、府下消防関係者の中でも「さすが八尾市の消防団は、みごとなものですね」と、好評でありました。

松村勝美分団長は結果について「長い間、訓練して

ただけでも、一般人以上の発症リスクを負っています。災害活動等、公務中に発症した疾病の場合、その因果関係については、日常の健康管理の状態が判断材料の大きなポイントとなることがあります。

まずは、自分の健康状態の把握から、積極的に健康診断を受けましょう。特に、他の機関において受診の機会がない人は、次回必ず受診することをお勧めします。



きた選手は勿論の事、それをフォローしてきた他の団員、家族にとつても良い経験になったと思います。仕事が終わった夜の八時からほとんど全員が、選手八名



の為に、一致団結して事故やトラブルも無くやり遂げた事が、入賞することより

ボーリング大会

平成九年度消防団厚生事業の一環として、消防団員ボーリング大会が平成九年十一月十七日(日)に八尾市天王寺屋「八尾ボーリング・アロー」において全分団から百五十名が参加し、実施されました。

体力の練成と団員間の親睦を兼ねたこの大会も今回で第五回を迎え、参加者も

北野団長の挨拶後、大会幹事で今大会参加中、最高齢の第二分団岩崎分団長の始球式で競技が開始され和気あいあいとしたムードの中で、無事終了いたしました。

も何よりも、大きな成果として、今後の分団の活動の中に残って行くと思います。団員の皆さん、そして家族の皆さん、本当に有り難うございました」と声を詰まらせて話して下さいました。

競技は二ゲームトータルの個人戦で五十歳以上は、一ゲーム当り十点を加算する方法で実施され主な結果については次のとおりです。

- 優勝 和野秀幸 三六八
- 準優勝 向井正雄 三六五
- 第三位 西尾一治 二二二
- ハイゲーム賞 和野秀幸 二二二
- 第八分団 朝田益史 当日賞
- B B賞 第一分団 挾間孝富

「災害現場や訓練時とは違ったやさしい顔と、制服以外の団員さんらしいものですね」とは団長の談。

本紙創刊号の発刊に当たり、市市長初め各位のご支援・協力を賜り、厚く御礼申し上げます。我が「素人編集委員会」も、会議を重ねる度に本紙の重み・意義を一層感じながら、更なる勉強の必要性を痛感しました。



消防団年間行事

- 四月 消防団員任命式
- 五月 恩智川水防訓練 団初任科・幹部教養 府地域防災総合演習
- 六月 ポンプ操法訓練
- 七月 大阪の消防大賞
- 八月 地区支部総合訓練
- 八月 河内音頭まつり警備
- 九月 大阪府消防大会
- 十一月 秋の火災予防運動 消防団員健康診断
- 十二月 歳末特別警戒 団厚生事業
- 一月 消防出初式
- 二月 恩智川河川踏査
- 三月 春の火災予防運動 消防記念日式典 大阪府消防表彰式

編集後記

本紙創刊号の発刊に当たり、市市長初め各位のご支援・協力を賜り、厚く御礼申し上げます。我が「素人編集委員会」も、会議を重ねる度に本紙の重み・意義を一層感じながら、更なる勉強の必要性を痛感しました。

編集委員会名簿

- 委員長 北山泰次
- 副委員長 久田弘義
- 本部分団 黒川昭義
- 第一分団 植野保弘
- 第二分団 緒方靖己
- 第三分団 赤澤一司
- 第四分団 川端均修
- 第五分団 川北良幸
- 第六分団 泉端幸
- 第七分団 杉山信弘
- 第八分団 桐山浩信
- 第九分団 辻野康道
- 事務局長 岸本正己
- 植田重治
- 西村正彦
- 田辺幸史